

- 問1 長野県などの高冷地で生産されるレタスは、明け方に収穫されたあと、保冷トラックを用いて約5時間かけて東京などの大都市へ輸送されます。このような仕組みがとられている理由を、生産の工夫と流通の観点から説明したものととして最も適切なものはどれですか。 （2023年 東京都公立入試 類似）
- 標高の低い地域での収穫時期とあえて重ねることで、市場への供給量を増やし価格を安定させるため。
 - 明け方の収穫によって害虫の活動を抑え、農薬の使用量を減らした「有機農業」としてのブランド価値を高めるため。
 - フォッサマグナ沿いの複雑な地形を移動する際に、振動による野菜の破損を抑えるための特殊な梱包時間を確保するため。
 - 水分が多く傷みやすい野菜の鮮度を維持するために、気温の低い時間に収穫し、低温を保ったまま迅速に輸送するため。
- 問2 長野県の八ヶ岳山麓周辺では、夏から秋にかけてレタスなどの野菜の生産が非常に盛んです。静岡県などの温暖な地域では冬から春に出荷のピークを迎えるのに対し、長野県が6月から9月の夏場に圧倒的な出荷量を確保できる理由として、最も適切な説明はどれですか。 （2018年 福岡県公立入試 類似）
- 標高が高い地域の涼しい気候を利用して、平地では栽培が困難な時期に生産を行っているから
 - 大規模な灌漑設備を整え、乾燥しやすい夏場でも大量の水を供給できる体制を整えているから
 - ビニールハウスや温室などの施設を利用して、自然の気温よりも温度を上げて成長を早めているから
 - 都市部までの距離が近いので、収穫後すぐに市場へ届けることができる利点を最大限に活かしているから
- 問3 長野県では夏から秋にかけて、標高の高い地域の冷涼な気候を活かしたレタスなどの栽培が盛んです。収穫されたレタスを、鮮度を保ったまま東京などの大都市圏へ届けるために工夫されている流通の仕組みとして、最も適切な説明はどれですか。 （2022年 神奈川県公立入試 類似）
- 保冷車を用い、収穫したその日のうちに都市部の市場へ届ける仕組み
 - 二酸化炭素の排出を抑えるため、すべて鉄道コンテナを利用して翌々日に届ける仕組み
 - 収穫後すぐに乾燥加工を施し、常温のトラックで大量に輸送する仕組み
 - 冬まで雪の中で貯蔵し、市場の品不足に合わせて出荷時期を遅らせる仕組み
- 問4 日本の伝統的な住居には、その土地の自然環境に合わせた工夫が見られます。冬の降雪量が非常に多い「豪雪地帯」において、家屋が雪に埋もれたり潰れたりするのを防ぐために、屋根の傾斜を急にした住居様式を何と呼びますか。 （2016年 長野県公立入試 類似）
- 高床住居
 - 土蔵造り
 - 寝殿造り
 - 合掌造り
- 問5 長野県の諏訪盆地周辺では、かつて盛んだった製糸業の技術を基盤として、現在はある工業が発展しています。この地域で発展した工業の種類と、その立地条件の理由として正しいものはどれですか。 （2024年 長野県公立入試 類似）
- 重化学工業 — 海外から原料を輸入するための大型船が着岸しやすい地形であるため。
 - 精密機械工業 — 塵（ちり）の少ないきれいな空気や、豊かな水が必要とされるため。
 - 集積回路（IC）産業 — 九州地方のような「シリコンアイランド」と呼ばれ、空港との連携が重要であるため。
 - せんい工業 — 原料となる綿花の栽培に適した、温暖で雨の多い気候であるため。
- 問6 日本の標高を示した資料において、北側の富山県側から順に飛騨山脈、木曽山脈、赤石山脈という3つの険しい山脈が並んでいる地域を指す総称と、それらの山脈の多くが位置する県の名称の組み合わせとして適切なものはどれですか。 （2019年 大阪府公立入試 類似）
- 奥羽山脈 — 岩手県
 - 日本アルプス — 長野県
 - 中国山地 — 岡山県
 - 越後山脈 — 新潟県
- 問7 中部地方の9県（新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知）における、産業分類と2017年の就業者数の特徴について述べた文として適切なものはどれですか。 （2022年 神奈川県公立入試 類似）
- 林業は第1次産業に分類され、2017年の中部地方9県における第3次産業就業者数は合計で600万人を超えており、すべての県で第3次産業の割合が最も高い。
 - 林業は第1次産業に分類されるが、中部地方の中で第2次産業に従事する就業者数が最も多いのは富山県であり、伝統工芸が地域の雇用を支えている。
 - 林業は建設業とともに第2次産業に分類され、愛知県では製造業の発展により第2次産業の就業者数が第3次産業の就業者数を上回っている。
 - 林業はサービス業と同じ第3次産業に分類され、山梨県や長野県などの高原野菜の産地では、第1次産業の就業者数が第3次産業の就業者数を上回っている。
- 問8 中京工業地帯の工業出荷額が日本最大である背景について、その産業構造の特色を説明したものととして最も適切なものはどれですか。 （2025年 福岡県公立入試 類似）
- 製鉄所や石油化学コンビナートが臨海部に集中しており、金属や化学などの基礎素材産業の出荷額が全体の過半数を占めている。
 - 古くからの繊維工業の伝統を活かし、現在は高機能な新素材や衣類などの軽工業製品が工業出荷額の大きな割合を占めている。
 - 自動車などの輸送用機械の製造が極めて盛んであり、関連する部品工場なども含めた広範な産業ピラミッドが形成されている。
 - 内陸部での電子部品や電気機械の製造が中心であり、近年は高速道路網の整備により輸送用機械の出荷額を上回る成長を見せている。
- 問9 日本有数の茶の産地である静岡県と鹿児島県の統計において、栽培面積に対する乗用型大型機械の導入割合を比較すると、静岡県の約6割に対し、鹿児島県は約9.5割と非常に高くなっています。このように茶の収穫に乗用型大型機械を積極的に導入する最大の目的として、最も適切なものはどれですか。 （2020年 広島県公立入試 類似）
- 少ない労働力で効率よく生産を可能にすること
 - 1ヘクタールあたりの収穫量である土地生産性を最大化すること
 - 手作業による摘み取りを行い、茶葉の品質を極限まで高めること
 - 熟練した労働者を多く雇用し、地域の雇用機会を創出すること
- 問10 飛騨山脈を含む「日本アルプス」と呼ばれる地域の地形的な特徴や位置関係について述べた文として、最も適切なものを選択肢から選んでください。 （2017年 山形県公立入試 類似）
- 標高3000メートル級の火山が円状に並び、その中心部には大規模な盆地が形成されている。
 - 北海道の中央部を南北に貫く山脈であり、冷涼な気候を利用した大規模な酪農が行われている。
 - 北から順に飛騨、木曽、赤石の各山脈が南北方向に連なり、日本の屋根を構成している。
 - 長野県と新潟県の県境を東西に走る険しい山脈であり、冬の季節風を遮る役割を果たしている。
- 問11 福井県の産業と自然環境について述べた説明のうち、適切なものはどれですか。 （2023年 長崎県公立入試 類似）
- 日本海側の平野部では、冬の乾燥した気候を利用した伝統工芸品の生産が盛んである。
 - 鯖江市を中心に、国内生産の約9割を占める眼鏡フレームの製造が行われている。
 - 県北部の若狭湾では、広大な砂丘を利用したメロンの栽培が盛んである。
 - 世界シェアの約2割を占める、自動車用タイヤの生産が県内全域で行われている。